

9月1日から ポリオ予防接種は個別接種になります

9月1日から単独の不活化ポリオワクチンの定期予防接種が開始され、従来の生ポリオワクチンを使用した予防接種は廃止されます。9月以降に保健センターで予定されていた生ポリオワクチンの集団接種は行いませんのでご注意ください。接種を終了していない方は、不活化ポリオワクチンを接種することになります。

●不活化ワクチンの接種方法

□接種方法が変わります
生ポリオワクチンは経口接種でしたが、不活化ポリオワクチンは皮下接種（皮下に注射）です。市内協力医療機関で接種することになります。

- 4回（初回3回＋追加1回）の接種が必要で、す
 - 初回接種 Ⅱ 3回（20～56日間隔で接種）
 - 追加接種 Ⅱ 1回（初回終了後、12～18か月間隔で接種）
- 対象年齢 生後3か月～7歳6か月未満

○ 1回目に生ポリオワクチンを接種した方は、不活化ポリオワクチンを3回接種することになります。

○ 既に任意または海外などで不活化ポリオワクチンを1～3回接種している方は、不足分の接種を受けることができます。

○ 4回目（追加1回）の接種については、国内臨床試験を実施中のため、定期接種としてはまだできません。

○ 接種までの流れ
① 市内協力医療機関（左ページ）に予約をする。
② 母子健康手帳、保険証、予診票を持参し、医療機関で受診する。

③ 接種する（定期接種対象年齢の方は無料）。
○ 接種の予約は必ずしてください。開始当初は混み合うことが予想されますが、医療機関の予約状況を確認して、慌てずに接種してください。

○ 不活化ポリオワクチンの予診票は保健センターまたは市内協力医療機関でお渡しします。生ポリオワクチンの予診票は使用できません。

●不活化ポリオワクチンとは…

ポリオウイルスの病原性を弱めて作った生ワクチンとは、かかったときとほぼ同様の仕組みで強い免疫ができます。免疫をつける力が優れている一方で、まれにポリオにかかったときと同じ症状が出る場合があります。これに対して、不活化ワクチンは、ポリオウイルスを不活化し（Ⅱ殺し）、免疫を作るために必要な成分を取り出し、病原性をなくして、作ったものです。ウイルスとしての働きはないので、ポリオと同様の症状が出るという副反応はありません。副反応としては、接種1週間後までに、接種部位の痛み、発熱や接種部位の腫れなどが起こる場合があります。

どうすればいいの？ ポリオワクチン

